

寛政九年

武者合天狗俳諧

馬琴作
二冊

13
2946
171



へ13
2946
171

丁巳新鐫史

武者合天狗俳諧 卷之上

江都

蔦重梓行



虎と画く猫と類と画工の不調宝月と書く
唐様の不通用形等との其品大に異なり
茲小執筆傀儡子圖を所の武者繪其形似
撰目して武者合天狗俳諧と云他元より高慢の
鼻甚ど高し故に新古の發句を加へ余ふ其評と
乞ふ是も又虎と画く猫と類し角と切て牛と殺
を類ひんと其趣と序と

丁巳の春

曲亭馬琴評



題門破

○左樊噲

茵

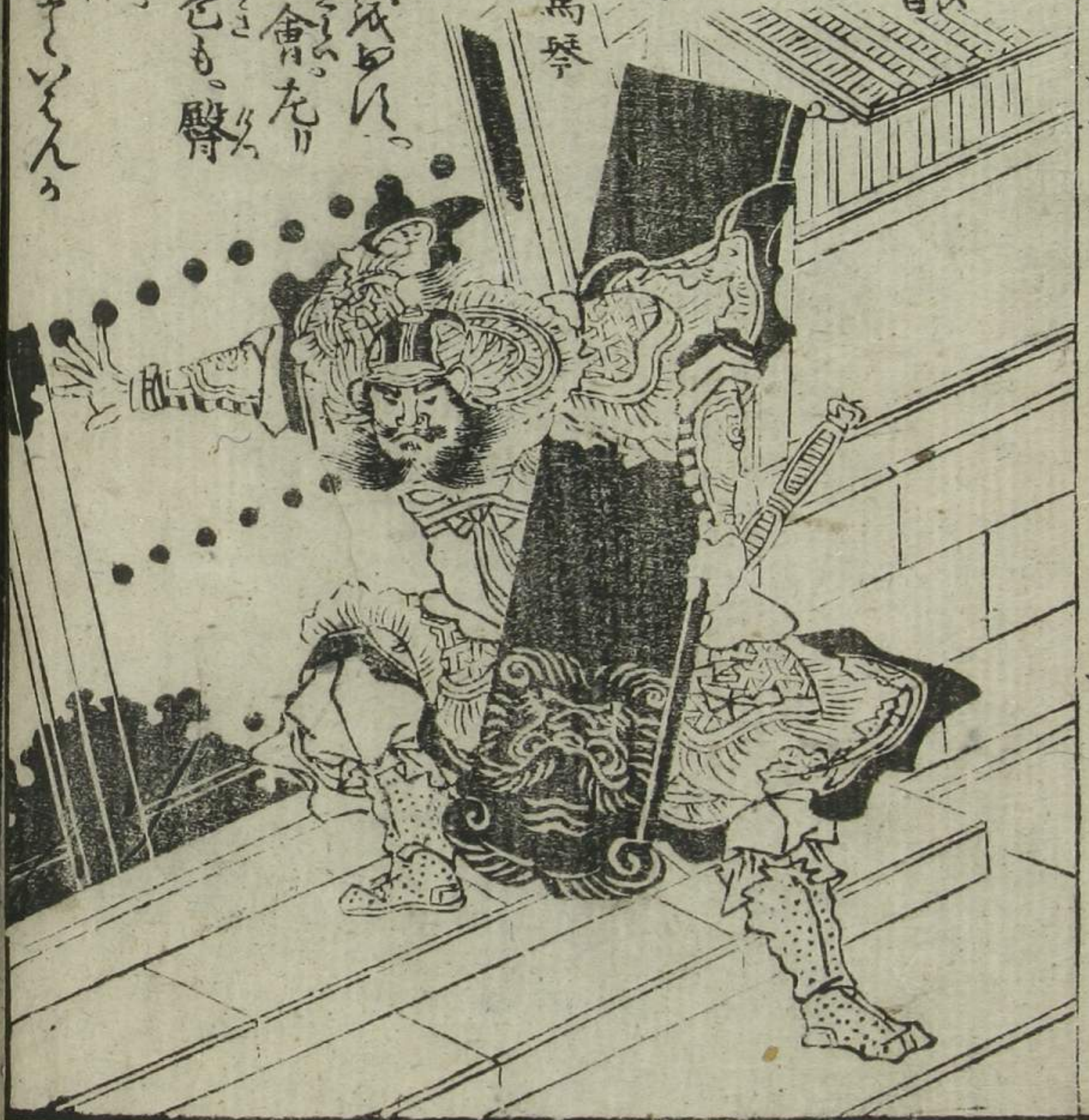
裏門

梅の花

馬琴

評
漢の高祖の屍成り、
樊噲が肛門の會を
誦らるれ鋒を、臂
の穴をさす。

勇ましくせん



右朝比奈

門

花の

羅文

評

大晦日のむ田
登る寝の
引く鬼の
引者さしえ日の
櫻ひかく

式者合



題制礼

左綱

二階

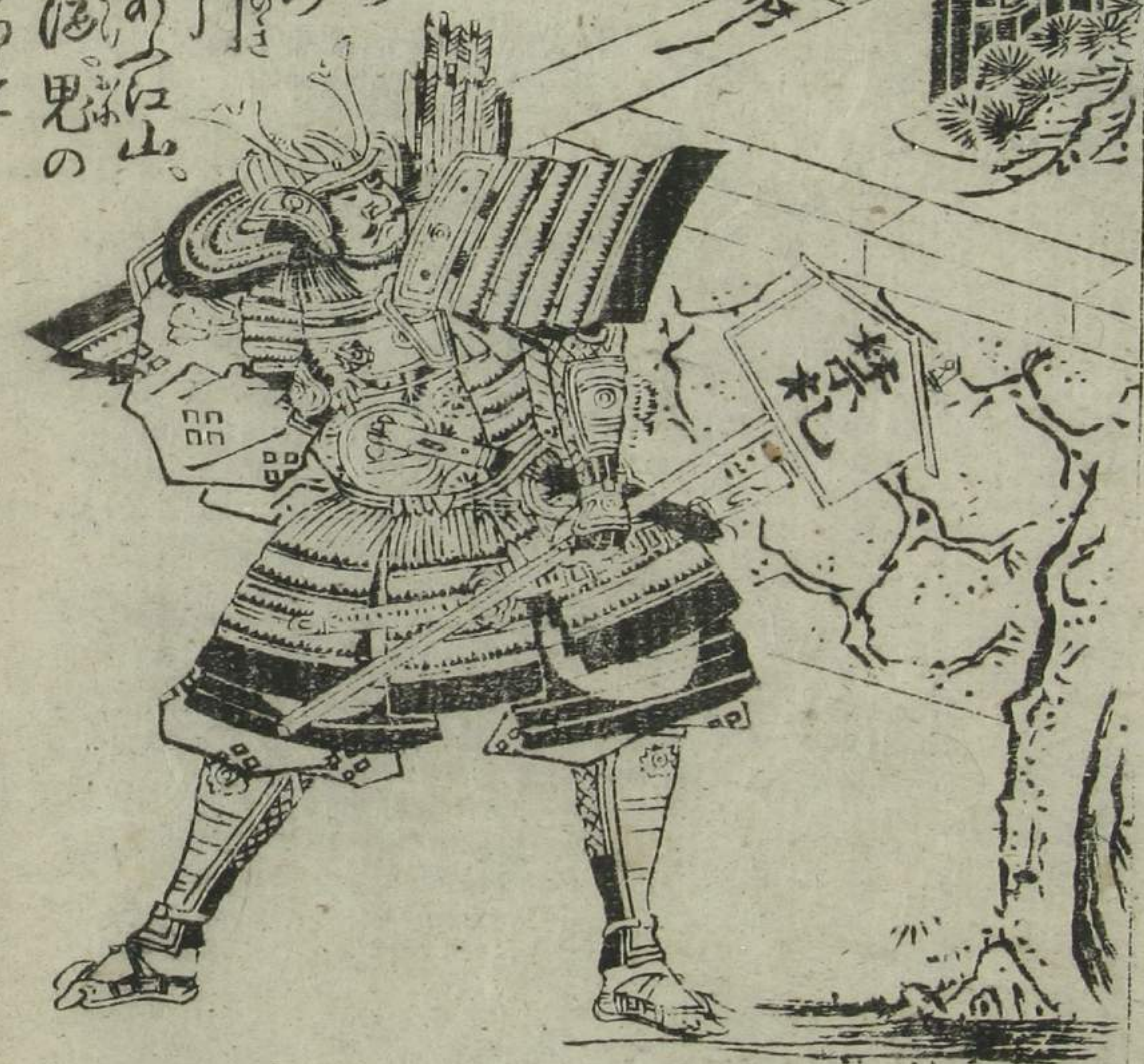
小使

柳

傀儡子

評

志まらぬ... 山候... 女屋... 鬼... 山...



右辨慶

西井

花の廊

京傳

評

居... 破... 花... 柳... 山... 女... 鬼... 山...



題 薙刀

左 蝕坂

蓼太

さ... あ...

評 樹の影

評 樹の影... 月... 影...



右 知盛

吾山

評 三りの月

評 借金... 細言... 素浪人...



題鬼神

左惟茂

評
不知作者



右木林彦七

評
古
その女



評
不知作者

題弓勢

左六孫王經基

正友と起りてや

照村山 羅文

評
 工於櫛の起りてや
 返魂余りみましく今
 毛もももらぬ
 又給事よちり
 鉄炮舗のれを友也
 隆元あやあへん



右源三位

頼政

おけよ

評

馬を控の

轡をゆるす

猿の三つり

了てわねのび



題孤子

左補正行

後や持の要

とせ

評 戦國み時成知ふ

情けなき

のいせ

おや形の子もあくと

あはれなき

ささ



右箱王丸

と川午や

たのむげ

不知作者

評

十一年の

徳解

振り

うさ

川

箱

子

心



題雷神

左管咽相

雷千打

松も

馬琴

評

生る耐は淫林の
長とまの。死も
風流の神もる手
上り車一りし
あかすおる
自在の神



右新田義興

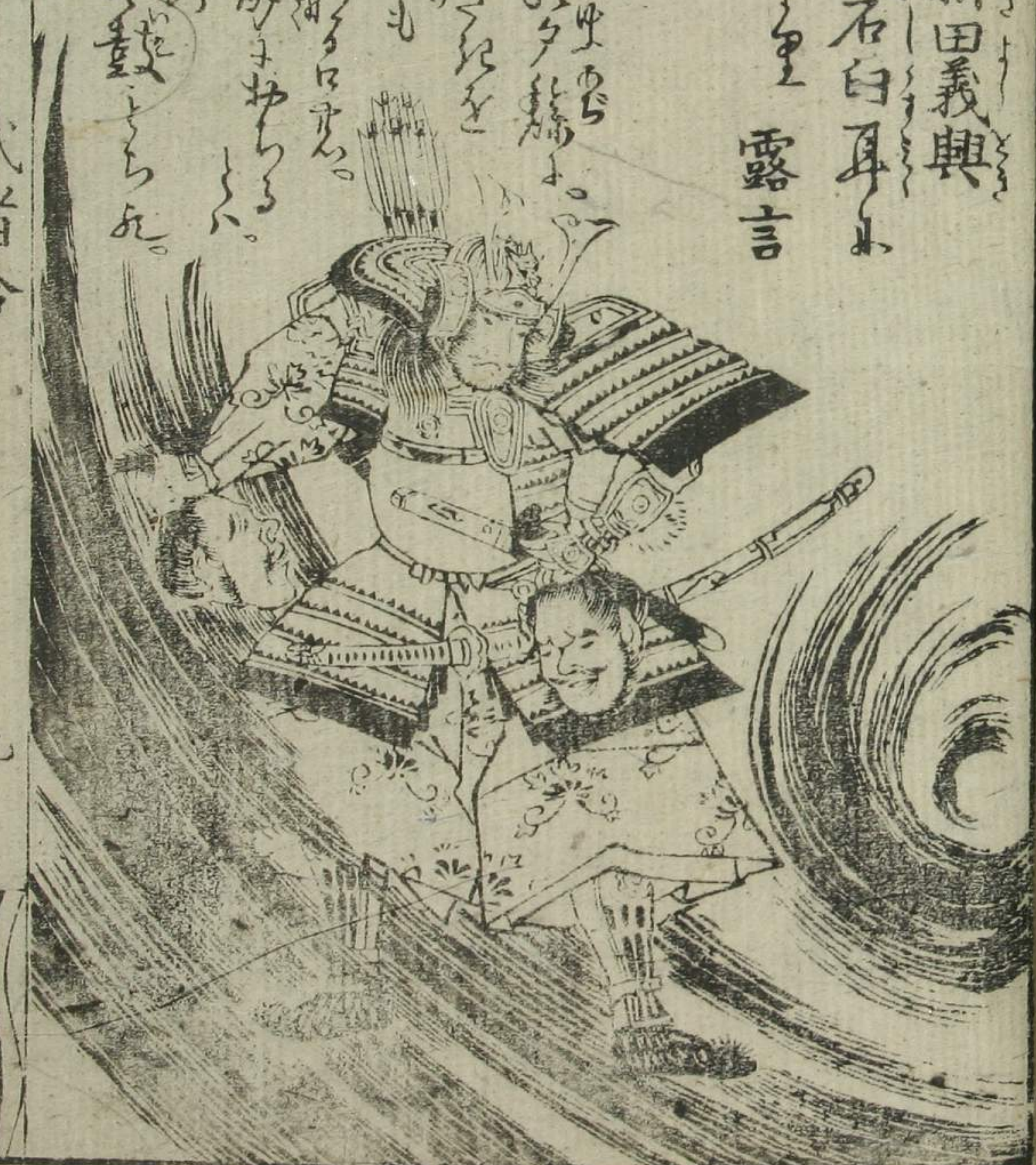
稻妻や石臼耳小

あ

露言

評

中の所は夕暮よ
めくはうを
裂けはるも
強ひおめ
るれ手田の
左鼓とら丸



和國小説

忠義大星水滸傳

山東菴主人著 五冊

此書ハ徳僞の謡曲假名手本忠臣義と據と
太史記の本を以てし其の辭ハ倣し忠臣義考より多
貞少の趣と切よきなり其の書も讀むに假名手本の
本なり

略解千字文

一冊

素讀のたゞしきとよきなり一冊と要し記す

画本二十四孝

三冊

世間流布の廿四孝ハひひ々々のすまじき本なり其の
は又唐本と翻刻しひひ々々のすまじき本なり其の
こうきやくとて初学の素讀本とかなる

繪本多能志美州

三冊

